

アースウォッチ・ジャパン

野外調査プログラム

募集要項

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科

フードサイエンス棟 4 階

[www.earthwatch.jp/](http://www.earthwatch.jp/)

# アースウォッチ・ジャパン 野外調査プログラム

## 募集要項 目次

はじめに.....	3
1. 応募資格.....	5
2. 対象研究.....	5
3. 申請書の記載.....	5
4. 評価.....	6
5. 実施期間.....	7
6. 協働の役割分担.....	8
7. その他条件.....	8
8. 選定方法.....	9
9. 応募手続き.....	10

はじめに

アースウォッチは、市民が自らの手で地球環境を守っていく社会づくりを目指して、これまで、環境問題について実証的な研究活動を行っている研究者の野外調査の現場に、市民をボランティア（Science volunteers）として派遣する活動を行っています。

アースウォッチは、1971年に米国ボストンで誕生した国際 NGO です。研究者と市民を結びつける仕組みをつくり、研究者には調査に必要な人手と資金を支援し、市民には実際の調査に立ち会うことで地球環境が直面している諸問題を体感し、深く理解する機会を提供してきました。

（アースウォッチのミッションなど概要は、後付を参照ください）

アースウォッチ・ジャパンは、米国アースウォッチの活動を日本に広げるために 1993 年に発足し、海外の市民参加型野外調査プログラム（以下「調査プログラム」といいます）に日本人を送り出してきました。1995 年からは海外だけでなく日本の研究者と協働した活動も開始し、これまでに 50 を超える国内の調査プログラムを運営し、1,500 人を超えるボランティアが参加してきました。

アースウォッチ・ジャパンは、重要度を増す環境保全分野に加えて、自然環境の再生・修復・伝統的利用・循環を追求する研究を広く支援し、研究の意義をより多くの市民に知ってもらうために、日本国内の調査プログラムに協働する研究を公募しています。

案件選定にあたっては、以下の三点を考慮します。

- ① 地球環境問題の理解や解決、持続可能な社会の実現に貢献する研究であること。
- ② 調査に参加した市民が、研究テーマを自分の問題として捉えられるような「自然と人との関わり」の視点があること。
- ③ 広く複数分野・機関が連携する研究や、「自然の多様なつながり」を重視した研究など分野横断型の視点があること。

アースウォッチ・ジャパンは、研究者の方々との調査プログラムを通じて、参加する多くの市民に自然に対する科学的な価値観が醸成され、次の世代に環境意識が広がっていくことを期待しています。

研究者の皆さまの積極的なご応募をお待ちしております。

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン

サイエンス・アドバイザー・コミッティ（プログラム検討委員会）より  
応募して下さる研究者のみなさまへ

サイエンス・アドバイザー・コミッティは、アースウォッチ・ジャパン理事会の諮問機関として、野外調査プログラムの開発・審査・評価を行う組織です。

メッセージ

日本は先進国の中でも独特の自然観を持ち続けている国です。  
それは、自然に生かされていることを知り、自然を活かすことを楽しみ、  
自然を往なすという概念で象徴されます。  
このような基盤の上に、自然をどのような視点で捉え、そのためにどのよう  
な研究が必要なのか、多くの皆さんからの応募を楽しみにしています。

石田秀輝（東北大学名誉教授、(合)地球村研究室代表)

四季のうつろいに身をゆだね、豊かな文化を育んできた日本人。  
その感性は、現代文明の進歩に追いやられつつある。  
自然を探求し、自然に生かされる道を見出すことは日本民族の本領であり、  
日本から発信することは地球の未来につながる。

丹治富美子（詩人、作家）

地域の希少な自然を保全するだけでなく、その地域に住んでいる人たちが  
自然の恵みを実感し、より持続的に利用できるようにするための研究を期待  
します。

中静 透（東北大学名誉教授）

科学研究は、市民にその中身が伝わることで価値を増し、環境問題解決の糸口  
ともなり得ます。一方で、市民生活は様々な面で科学の恩恵を受けています。  
科学研究と市民が良い形でつながる上で、お役に立てれば幸いです。

益田 玲爾（京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所教授）

自然観は、各国で様々な捉え方があります。欧米では、人間と環境を切り離  
した別々の存在と捉えがちですが、日本では人間も環境の一部と見なす見方  
もあります。日本独自の視点に基づくユニークな提案を期待します。

八木 信行（東京大学 特命教授室 特命教授）

## 1. 応募資格

日本国内に拠点を持ち、かつ、研究実績を3年以上持つ、下記①～④のいずれかの団体に所属する個人、グループ等を対象とします。

- ① 大学・博物館等の研究教育機関
- ② 公的研究機関（独立行政法人、地方独立行政法人、自治体及びそれらの研究機関に準ずる機関を指します）
- ③ 財団・社団・特定非営利活動法人
- ④ 上記①～③の協働グループ

なお、申請は、当該団体に所属する職員の方を申請代表者とします。

## 2. 対象研究

### 2.1 研究領域

研究は以下4つを**重点的な領域**として設定し、同領域あるいは同領域を含む複数に合致するものを対象とします。

- 1). 海と陸をつなぐ領域：沿岸生態系・海洋環境と陸域の環境など
- 2). 人間と野生生物の境界線の変動：里山環境・奥山と人里の環境など
- 3). 種に関わる領域：固有種・希少種・外来種の分布の変化など
- 4). 日本の自然観に基づいた領域：伝統的な資源利用、持続可能な資源管理のための知恵など
- 5). その他、アースウォッチ・ジャパンのミッションに即すると思われる領域・テーマ

### 2.2 対象地域

研究を実施する地域は日本国内を対象とします。なお、海外における研究については、別途ご相談ください。

## 3. 申請書の記載

### 3.1 申請者の基本情報

### 3.2 対象研究

#### 1) 調査研究の概要：

申請する「研究の背景」、「研究の目的」、「研究の意義・必要性・独自性」、「実施する研究調査の概要」について記述して下さい。

#### ※研究の背景について

アースウォッチは、重要度を増す環境保全分野に加えて、自然環境の再生・修復・伝統的利用・循環を追求する研究を広く支援し、研究の意義をより多くの市民に知ってもらうことを活動の目的としています。そのため、今回申請する研究について、研究対象となる野生生物や生態系の現状と課題を記述してください。また、既存の活動状況も記載してください。

## 2) 研究で期待される成果について

今回申請する研究で期待される、学術的・社会的成果について記述して下さい。

### ※学術的成果について

学術的意義について、具体的には地域的・全国的・国際的にもたらす成果について記述して下さい。科学論文による発表予定、また論文以外の研究成果の普及・啓発方法、研究成果の活用方法についても合わせてお考えを記述して下さい。

### ※社会的成果について

社会的意義について、具体的には研究成果がどのような形で社会に貢献できるかを記述して下さい。また、一般参加者に対する環境教育としての観点(※)から、調査活動に参加することで得ることのできる知識や身につけられる技術などがあれば記述して下さい。

※アースウォッチでは、研究者にとっても、参加するボランティアにとっても、互恵的なプログラムを目指しています。  
科学的野外調査に一般の人々が参加することで、教育の機会を得て、持続可能な環境について理解し、持続可能な社会へ向けて必要な行動を促進できると考えています。

## 3) 調査計画

### ① 調査地：

調査地とその周辺地域についての情報を記述して下さい。

### ② 研究計画：

研究計画とその方法を、目的の達成との関係が分かるように記述して下さい。

### ③ ボランティア活動：

調査参加者が実際に現地で行う作業内容を記載して下さい。

### ④ 調査チーム：

予定しているチーム数(調査回数)、1チームのボランティアの人数および調査期間を記入して下さい。

1年間に各5人以上のチームを数チーム編成し、各チームの調査期間は日帰りから5日間(土日を含む)程度で構成されることが理想です。

### ⑤ 予算の概略：

ボランティアと研究スタッフの経費予算額を記入して下さい(ボランティアは集合場所までの往復旅費を自己負担します)。

## 4. 評価

### 4.1 評価基準

以下の基準に基づき評価・選定を行います。

- ① 本助成の目指す領域・テーマへの適合（必須条件）  
地球環境問題の理解や解決、持続可能な社会の実現のいずれかに貢献すること。
- ② 研究テーマ設定の妥当性、有効性
- ③ 研究の実効性  
事業計画、手法等の観点から、着実、かつ実効性ある研究の遂行が期待されること。
- ④ 予算設計の妥当性  
研究の遂行上、適切な予算計上がなされていること。
- ⑤ 案件推進能力  
実施主体が当該研究の遂行に十分な能力を持つと考えられること。
- ⑤ 関連実績  
申請テーマ等に関する研究論文、メンバーの略歴等について
- ⑥ 研究の社会性  
研究調査に参加した市民が、研究テーマを自分の問題として捉えられるような「自然と人との関わり」の視点がある計画を歓迎します。  
多種多様な分野・機関の研究と連携する、または「自然の多様なつながり」を重視した研究など、横断型の視点を歓迎します。

### 4.2 対象としない研究

下記のような研究は、対象外とします。

- ① 営利（特許取得、商品開発等）を目的とした研究
- ② 政治的・宗教的な活動を目的とした研究
- ③ 特定の事業者や個人の利益に寄与すると見なされる研究

## 5. 実施期間

採択された時期より3年間とし、3年を超える場合には、研究実績などを踏まえて継続の可否を検討します。

## 6. 協働の役割分担

### 6.1 アースウォッチの実施内容

- ① 現地での野外調査プログラムについて、研究者と調整します。
- ② 事前調査にて安全管理の確認をします。
- ③ 資金的なサポートを企業や助成機関に募ります。

（ただし、助成金や企業支援の獲得を保障するものではありません）

- ④ 研究者から提供されたコンテンツをもとに、事前に参加者に配布する参加解説書を作成します。
- ⑤ ボランティアの募集と参加するまでの手続きや保険加入を行います。
- ⑥ 活動後の参加アンケートを行い、プログラム改善につなげます。
- ⑦ 支援している研究を広く知ってもらうべく、研究の成果を情報発信します。

## 6.2 研究者に実施していただく内容

- ① 野外調査活動の内容や研究の意義、成果などのコンテンツを提供いただきます。
- ② 現地の調査プログラムにおいて、フィールド活動の指導やレクチャーを行っていただきます。なお、立ち上げ期以外の調査プログラムにはアースウォッチ職員は現地同行を通常致しません。現地での調査プログラムの運営は研究者サイドでお願いします。
- ③ 調査データを取りまとめ、一年間の成果概要をアースウォッチ・ジャパン発行の年次報告書にて報告していただきます。

## 6.3 プログラム実施費用について

- ① ボランティアの宿泊費、食費、諸雑費  
プロジェクト参加費用としてボランティアから徴収します。
- ② ボランティアの交通費  
現地までの交通費はボランティアが各自負担します。
- ③ 研究者および研究スタッフの現地滞在費、交通費、その他野外調査活動費用  
企業などの寄付・助成が得られた場合に費用を支援します。費用の支援ができない場合は研究者サイドにご負担をお願いします。

なお、実施費用のうち③に関わる予算の概略を申請書にご記入ください。現在運営中のプログラムは一回につき10万円～100万円程度で実施しています。

## 7. その他条件

### 7.1 協働契約の締結

研究者には上記条件を含む実施内容の覚書を当法人与締結して頂きます（当法人所定の覚書にて締結いただきます。）なお、契約主体は申請代表者とします。

契約は、採択された時期より3年間とし、この期間を対象として1年単位で実施契約を締結します。

### 7.2 成果の公表

調査プロジェクトの成果は、事前に内容のご了解を得たうえで、当法人ホームページ等で公表する場合があります。また、本助成の成果発表会や講演会等で発表をお願いする場合があります。

### 7.3 助成研究の成果等の公表

支援を受けた研究の成果に係る特許や著作権等の知的財産権は、申請者に帰属します。当法人がそのような権利を主張することはありません。対外公表する際には、当法人から助成を受けた旨の明示をお願いします。

## 8. 選定方法

### 8.1 選定プロセス

助成研究の選定は、当法人理事会の諮問機関である「サイエンス・アドバイザー・コミッティ（プログラム検討委員会）」による一次審査、ならびに当法人の理事会による総合的判断に基づき決定されます。

なお、上記の選定プロセスに加え、一次審査の通過案件を対象に必要なに応じて面接を実施します。面接審査の対象案件の申請代表者には別途詳細をご連絡いたします。

#### サイエンス・アドバイザー・コミッティ（プログラム検討委員会）

アースウォッチ・ジャパン理事会の諮問機関として、野外調査プログラムの開発・審査・評価を行う組織です。

##### ■議長：石田秀輝

東北大学名誉教授、(合)地球村研究室代表  
分野：バイオミミクリー、自然に学ぶテクノロジー

##### ■メンバー

##### 丹治 富美子

詩人、作家  
分野：源氏物語、五感、日本の自然観、自然との共生

##### 中静 透

東北大学名誉教授  
分野：森林生態・生物多様性・植物生態

##### 益田 玲爾

京都大学フィールド科学教育研究センター 教授  
分野：潜水による魚類生態調査、水産学

##### 八木 信行

東京大学 特命教授室 特命教授（産学協創部 兼プラネタリーヘルス研究機構）  
分野：農学国際専攻 国際水産開発学教室

## 8.2 選定結果の通知・開示

最終的な選定結果は、申請代表者にご連絡します。

## 9. 応募手続き

### 9.1 募集期間

年間を通して募集しています。

### 9.2 申請書類

以下の所定の申請書類を用いて提出してください

[https://www.earthwatch.jp/for\\_researchers/index.html](https://www.earthwatch.jp/for_researchers/index.html)

### 9.3 申請書類に関する注意事項

- ① 申請書類は書面で郵送・宅配便・電子メールでの送付により、受付けます。
- ② 郵送の場合、申請書は片面印刷し、クリップ等を使用し、ホチキスどめはしないでください。また、白黒でも認識できるようにしてください。申請書以外の書類はその限りではありません。
- ③ 提出いただいた申請書類は返却いたしません。また、提出いただいた申請書の差し替えはできません。

### 9.4 申請書類の提出先

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科

フードサイエンス棟4階

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン 「野外調査プログラム」係

e-mail: [yitoh@earthwatch.jp](mailto:yitoh@earthwatch.jp)

### 9.5 個人情報の取り扱い

当法人は、個人情報保護法及び関連諸法令を遵守し、当法人の個人情報保護方針に基づき、個人情報を適切に管理致します。詳細はwebをご確認いただくか、アースウォッチ・ジャパン事務局までお問合せください。

<https://www.earthwatch.jp/トップページ/earthwatchjapan/個人情報保護方針/>

## アースウォッチ・ジャパン

### 概要

名称	認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン		
住所	〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学大学院 農学生命科学研究科フードサイエンス棟 4 階		
電話	03-3830-0688	FAX	03-3830-0061
e-mail	info@earthwatch.jp	URL	<a href="https://www.earthwatch.jp/">https://www.earthwatch.jp/</a>

### 沿革

1993 年 1 月 25 日	アースウォッチ・ジャパン設立
2003 年 2 月 28 日	特定非営利活動法人認証
2013 年 4 月 1 日	認定特定非営利活動法人 認定

### ミッション

野外における研究者の科学的な調査や教育と市民をつなぎ、参加した市民が自然環境や生物の変化に対する認識や理解を深め、持続可能な環境のために行動することを促進します。

### 活動概要

- 日本国内の野外調査プログラムの企画・運営
- 海外の野外調査プログラムへの日本人ボランティアの派遣
- セミナー等の開催
- 研究者の講演会：アースウォッチ・ジャパンが主催する野外調査プログラムの主任研究者による研究成果報告会を開催。
- ボランティアによる体験報告会：アースウォッチの国内外プログラムに参加したボランティアによる体験報告会を開催。